

「人生100年時代」を踏まえた 「社会人基礎力」の見直しについて

平成29年10月

産業人材政策室

政府における検討経緯

2016年6月 「一億総活躍プラン」策定

⇒ 保育・介護に力点



「働き方改革」に焦点

本年3月 「働き方改革実行計画」策定

⇒ 長時間労働是正、同一労働同一賃金（格差是正）に力点



「生産性向上」への回帰
人生100年時代（LIFE SHIFT）への注目

同年9月 「人生100年時代構想会議」発足

⇒ 教育の負担軽減・無償化、リカレント教育、人事採用の多元化 など

平成29年9月11日(月)第1回「人生100年時代構想会議」

安倍総理大臣締めくり発言（検討4項目について）

- 第一に、全ての人に開かれた大学教育の機会確保について。志があっても経済的に恵まれない若者が、勉学に専念できる環境整備が必要であり、教育負担の軽減のため、給付型奨学金や授業料の減免措置などの拡充・強化を検討すべきとの意見をいただいた。この方向で議論したい。
- 第二に、大学改革について、複数の議員が重要性に言及された。**何歳になっても学び直しができる環境を整備するためには、社会人の多様なニーズに対応できる受け皿が必要**であり、**IT人材の育成も急がなければならない**。**学問追求と実践的教育のバランスに留意しつつ、実践的な職業教育の拡充を図る必要がある**。同時に、**リカレント教育を受けた方に就職の道が開けるよう、産業界には、人材採用の多元化を検討いただきたい**。
- 第三に、全世代型社会保障への改革である。若い世代への公的支援の充実という意見をいただいた。待機児童対策、幼稚園・保育所といった幼児教育無償化の加速、また、介護離職ゼロに向けた介護人材の確保対策をしっかりと進める必要がある。
- 第四に、これらの施策の実行に伴う財源の問題についても御指摘があった。財源がなければ政策は実現できない。財源についても、この構想会議の場で、しっかりと御議論いただき、結論を出していきたい。

※年内に中間報告、基本構想は来年前半と言及あり

<人生100年時代構想会議 メンバー>

(政府)

議長	安倍晋三	内閣総理大臣
議長代理	茂木敏充	人づくり革命担当大臣
副議長	林芳正	文部科学大臣
	加藤勝信	厚生労働大臣
議員	麻生太郎	副総理 兼 財務大臣
	菅 義偉	官房長官
	世耕弘成	経済産業大臣
	野田聖子	女性活躍担当大臣
	松山政司	一億総活躍担当大臣

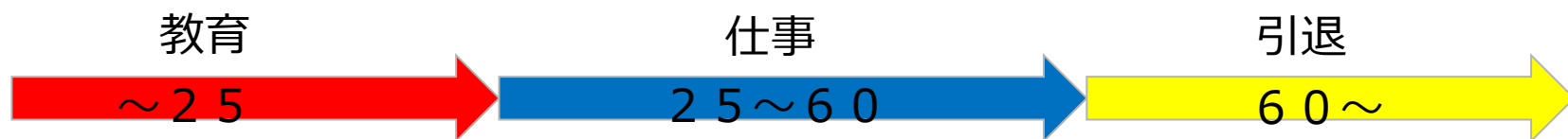
(有識者)

リンダ・グラットン	英ロンドンビジネススクール教授 世界的ベストセラー「ライフシフト」著者
鎌田薫	早稲田大学総長（教育再生実行 会議座長）
松尾清一	名古屋大学総長

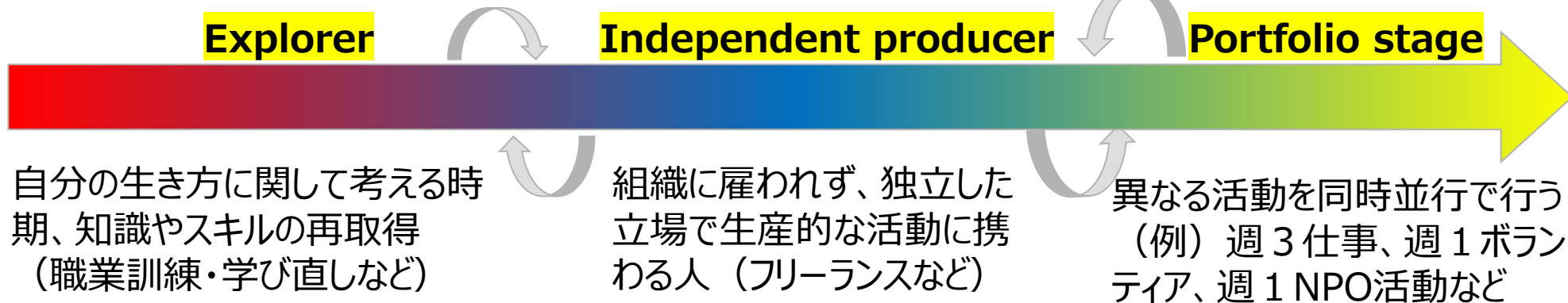
榊原定征	日本経済団体連合会会長
神津里季生	日本労働組合総連合会会長
宮島香澄	日本テレビ報道局解説委員
樋口美雄	慶應大学商学部教授
高橋進	日本総合研究所理事長
宮本恒靖	元サッカー日本代表主将、 現ガンバ大阪U-23監督
品川泰一	ユーキャン代表取締役社長
米良はるか	READYFOR株式会社代表取締役
三上洋一郎	GNEX代表取締役CEO、 慶応大学総合政策学部2年
若宮正子	1935年生まれ。高卒後、定年まで 銀行勤務。定年後パソコンを購入、 82歳でスマホ用ゲームアプリ開発

“ LIFE SHIFT ” （ 2016年 リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット著）

人が100年も“健康に”生きる社会が到来する時、従来の3つの人生のステージ（**教育を受ける／仕事をする／引退して余生を過ごす**）のモデルは大きく変質する。



個人の状況に応じて、それぞれのタイミングで3つのステージを行ったり来たりするように



<100年ライフにおいて必要性が増すもの>

- ・**教育**（専門技能を高め、世界中の競合との差別化が必要）
- ・**多様な働き方**（70才超まで働くことを想定し、独立した立場での職業を考える）
- ・**無形資産**（お金だけでなく、経験や人的ネットワークなど）

産業界と教育界をつなぐ ～「リカレント教育」と「Ed-Tech」～

「Ed-Tech」と「リカレント教育」に関する大臣懇談会（9／5）

テクノロジーで教育現場を支えていく「Ed-Tech（エドテック）」と、社会人も生涯学び続ける「リカレント教育」について、最先端の取組を行う方々にお越しいただき、意見交換。

○経済産業省

- ・経済産業大臣 世耕弘成
- ・経済産業副大臣 西銘恒三郎

○Ed-techに関する取組

- ・Classi株式会社 加藤 理啓 様
- ・株式会社LOUPE 浅谷 治希 様
- ・株式会社スクー 森 健志郎 様
- ・千代田区立麹町中学校 工藤 勇一 様

○リカレント教育に関する取組

- ・株式会社Waris 田中 美和 様
- ・社会人材コミュニケーションズ 宮島 忠文 様



懇談会の様子（2017/9/5@経済産業大臣室）



経済産業省において、第4次産業革命や「人生100年時代」を受けた、人材育成・教育に関する課題と方向性を整理するため、検討の場を設置。

①Ed-Tech、教育サービス産業

「Ed-Tech」や教育サービス産業の活用を通じ、教育の生産性向上について検討。

②産業の人材力強化

産業界で求められる人材像・スキルやそれを踏まえたリカレント教育の充実等についてパッケージで検討。

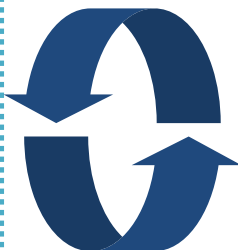
我が国産業における人材力強化に向けた検討の方向性

- 「人生100年時代」を踏まえ、①リカレント教育の充実、②（特に大企業から中小企業等への）転職・再就職の円滑化、それらのベースとなる③必要とされる人材像の明確化や確保・活用、④産業界として果たすべき役割をパッケージで検討することが必要。

必要な人材像とキャリア 構築支援の在り方

働き手・送出し企業の課題

- キャリアの基盤となる「社会人基礎力」の見直し
- 従業員のキャリア構築に向けた企業の責任
- 産業政策からみる必要な人材像の明確化
- リカレント教育の在り方



中小企業等における 中核人材の確保・活用

受入れ企業・労働市場の課題

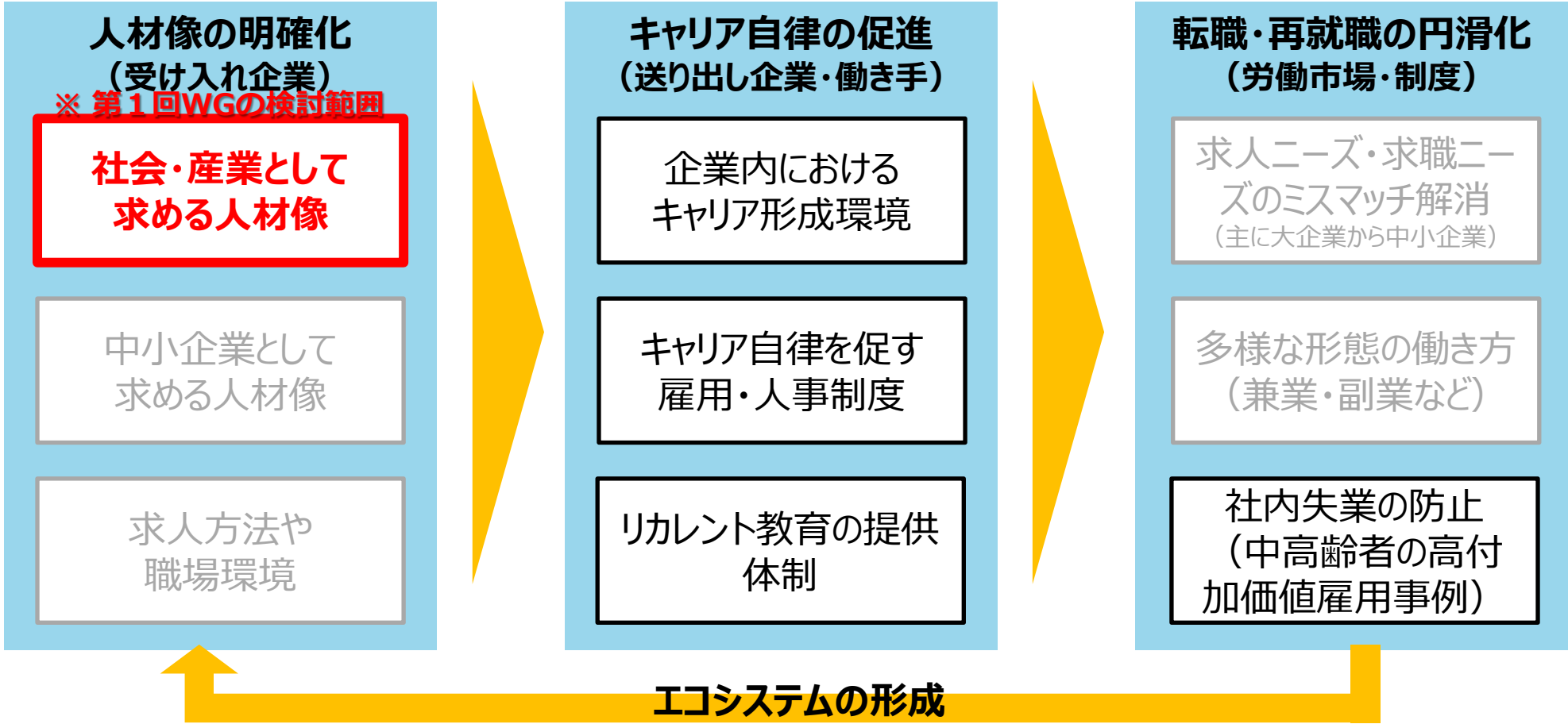
- 中小企業における中核人材の具体的なニーズ把握
- 中小企業が取組むべき具体的なステップとその共通手法
- 中小企業が中核人材確保に必要なサポートや有効なスキームの方向性
- ダイバーシティ経営等の推進

パッケージで検討

我が国人材力の強化

人材力研究会 及び 人材像WGの検討範囲

- 研究会全体としては、「人材像の明確化」、「キャリア自律の促進」、「転職・再就職の円滑化」をトータルパッケージで検討。
- 人材像WGでは、主に「人材像の明確化」や「キャリア自律の促進」について検討。



「社会人基礎力」と新たな課題

「社会人基礎力」提唱の背景

90年代以降のビジネス・教育を巡る環境変化

【ビジネス環境の変化】

- 国内産業の成熟化による右肩上がりの成長の終焉、市場ニーズの多様化、商品サイクルの短期化
- I T 化の進展による単純作業の機械化

【教育環境の変化】

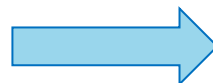
- 家庭や地域社会の教育力の低下、大学進学率の上昇と大学全入時代の到来

若者が学校卒業後にスムーズに職場に定着できないことが社会問題化
(いわゆるニートなどの「学校から職場への移行」の問題)

職場等で求められる能力の明確化

【企業の経営課題の変化】

既存の成功モデルの踏襲



新しい価値の創出

【求められるようになった能力】

- 新しい価値創出に向けた課題発見、関係者からのアイデア収集、実現のための試行錯誤
- 多様な人々との協働による課題解決活動など、チームワークが求められる度合いの高まり

従来、十分に意識されていなかった「職場等で求められる能力」をより明確にし、意識的な育成や評価を可能としていく必要。

「社会人基礎力」の定義

平成18年1月に経済産業省が主催した産学の有識者による委員会（座長：諏訪康雄法政大学大学院教授（当時））により、**職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を「社会人基礎力(= 3つの能力・12の能力要素)」として定義。**

前に踏み出す力（アクション）

～一步前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～



主体性

物事に進んで取り組む力

働きかけ力

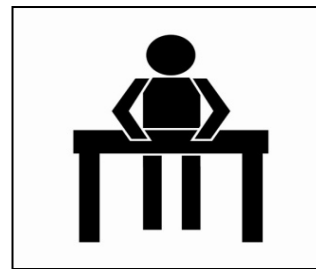
他人に働きかけ巻き込む力

実行力

目的を設定し確実に行動する力

考え抜く力（シンキング）

～疑問を持ち、考え抜く力～



課題発見力

現状を分析し目的や課題を明らかにする力

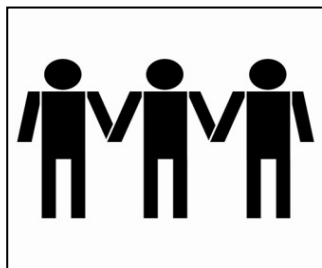
計画力

課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力

創造力

新しい価値を生み出す力

チームで働く力（チームワーク）



発信力

自分の意見をわかりやすく伝える力

傾聴力

相手の意見を丁寧に聴く力

柔軟性

意見の違いや立場の違いを理解する力

状況把握力

自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力

規律性

社会のルールや人との約束を守る力

ストレスコントロール力

ストレスの発生源に対応する力

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～

近年の働き方や生き方の変化

<これまで> Work for Life

働き方や生き方

職務の無限定

長時間労働

年功序列

新卒一括採用

終身雇用

正規／非正規の格差

OJT中心

仕事と家庭の峻別

他律的キャリアの受容

妥協・忍耐

第四次産業革命に
よる急激な
産業構造の変化

生産性が置き去り
IoT時代に通用しないスキル
学び直しの機会の未整備

人手不足の深刻化
人材流動性の低さ

人口減少
人生100年

<これから> Work as Life

働き方や生き方

専門性の追求

生産性の向上

成果による評価

多様な働き手の参加

労働移動の円滑化

人材の最適活用

Off-JTの活用

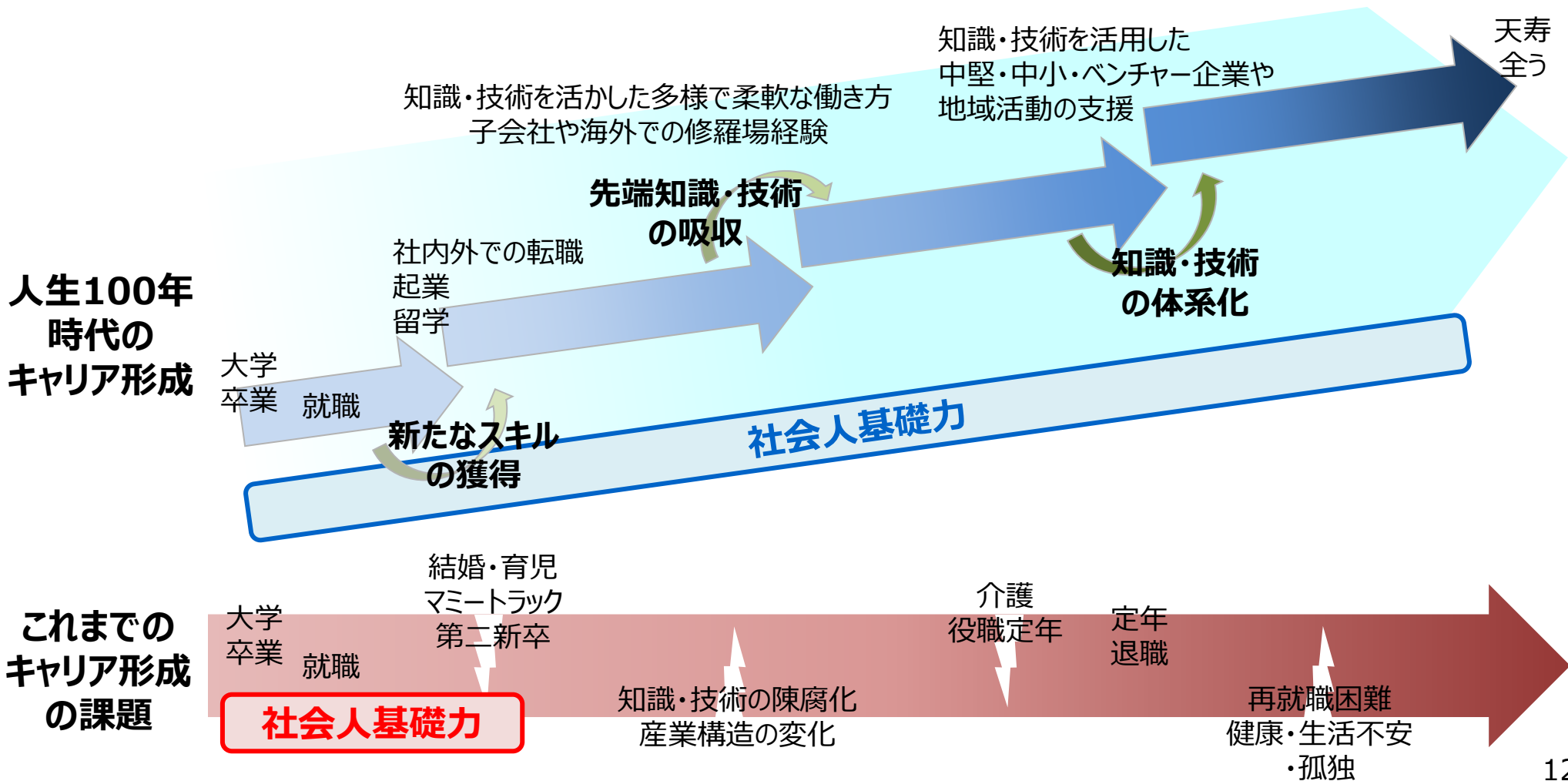
仕事と家庭の両立

自律的キャリア形成

モチベーションの維持

「社会人基礎力」の課題

- AI や I o Tをはじめとした第四次産業革命による産業構造の変化や人生100年時代に対応するための資質・能力として、**3つの能力・12の能力要素は十分と言えるか。**
- 大学教育、就職・採用、新入社員研修など、限られた年代での活用が中心となっている「社会人基礎力」は、**学び直しにあたって、全ての年代が意識すべきではないか。**



「社会人基礎力」の見直しに向けた論点

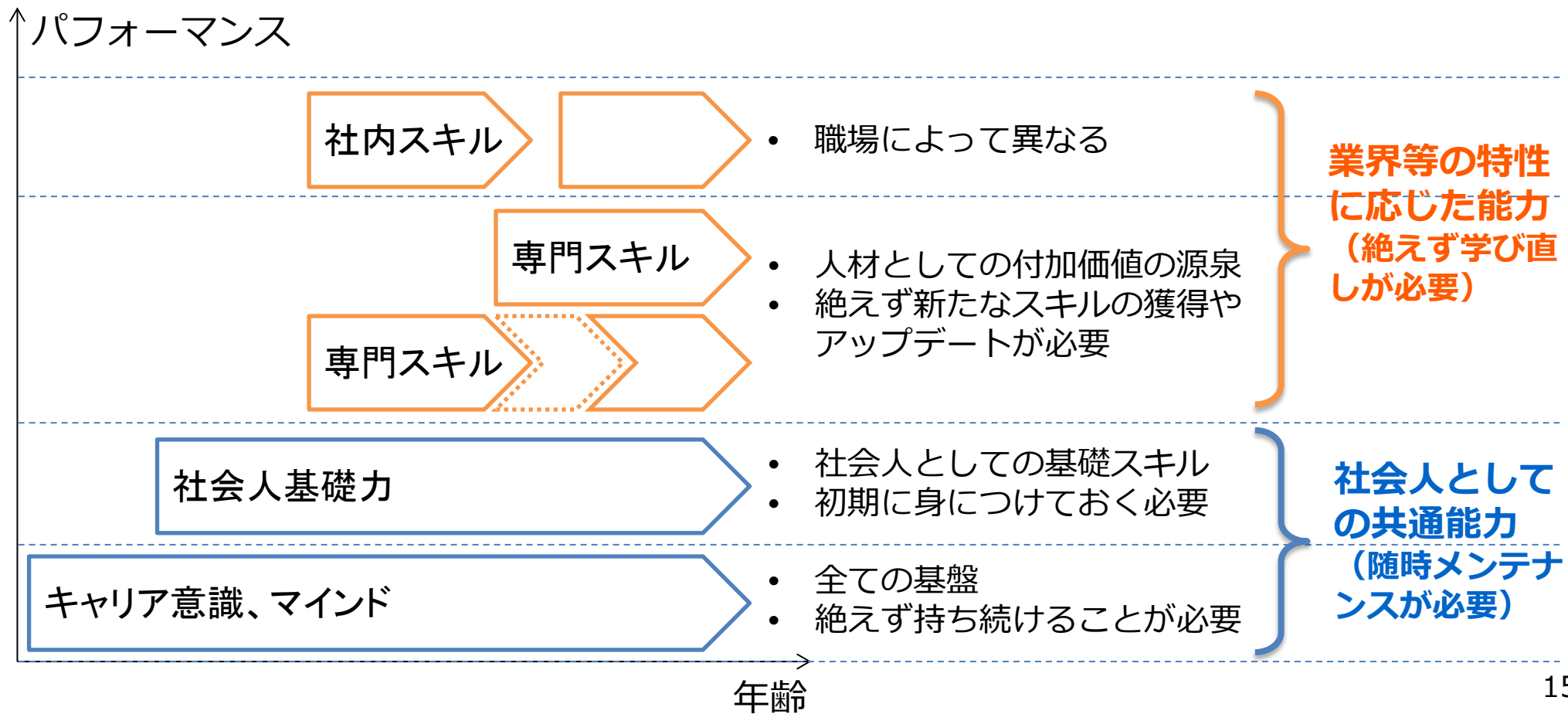
第四次産業革命や人生100年時代を見据えて、就学前から中高年社会人まで全ての層の人材が、これから求められる資質・能力を**新たな「社会人基礎力」**として備えられるようにするためには、下記の論点について議論が必要ではないか。

- ① 個人がそれぞれの仕事や生活の環境の中で「社会人基礎力」を発揮し続けられるよう、**キャリア形成の羅針盤を示す必要**があるのではないか。
（今回WGの議論の対象）
- ② 「社会人基礎力」を就学前から中高年社会人までの**全ての層の人材に普及させるためにはどのような取組が求められるのか**。（第4回WGで議論）

「社会人基礎力」の 見直しの方向性

「人生100年時代」の「働き方」と「生き抜く力」

- 「人生100年時代」において、キャリア・オーナーシップや「成果」を出すマインド、そのための社会人基礎力は必要不可欠な土台。
- 付加価値を発揮し続けるためには、「一億総学び」社会の下で、**絶えず学び直しを通じたアップデートや新たなスキルの獲得が必要不可欠**。



雇用の未来



3つの示唆

1 3ステージではなくマルチステージの人生

2 家族構成の変化

3 生涯にわたる学びが重要になる

「社会人基礎力」の3つの能力をより高次元で実践することを求めていることに加えて、周囲にいる人も含めた健康や幸福の追及・維持を求めている。

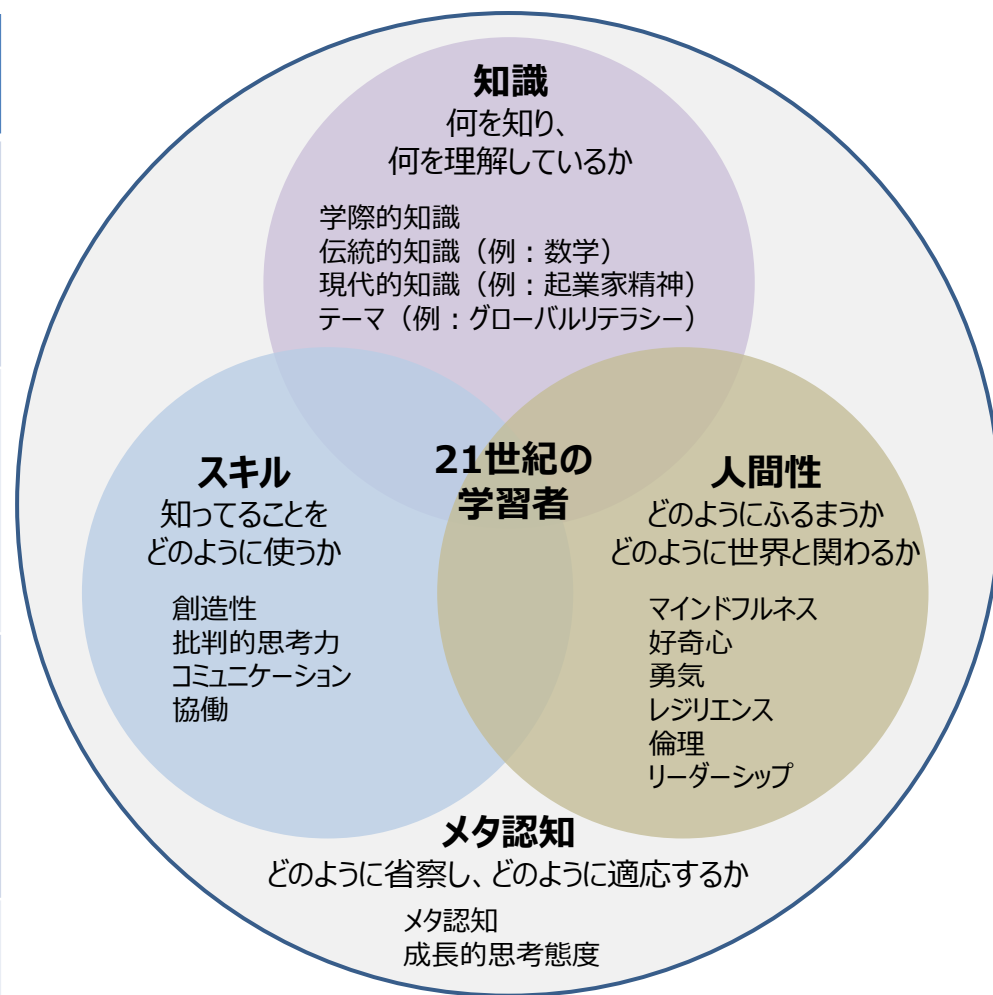
- ① **状況把握の知性（精神）** — 知識を理解し、応用する能力
 - 新たなトレンドを予想し、全体像を組み立てる能力
 - 多様性のあるネットワークの価値を理解する
- ② **感情的知性（心）** — 思考や感情を処理し、統合する能力。あるいは自分自身とそれらに関連づけたり、それら同士に関連づけたりする能力
 - 状況把握を補完する存在
 - 自己認識、自己統制、モチベーション、共感、ソーシャルスキルの重要な基盤
- ③ **啓示的知性（魂）** — 公益のために変化をもたらし、行動するための個人および共通の目的意識や信頼感、その他の美德を活用する能力
 - 共通の運命感に基づく新たな集団的意識や道徳的意識へと、創造的な欲求を伸ばし、人間性を高めることを目指す
 - 連帯によって共通の目的意識を持ち、共通利益を目指した意思決定を常態化することによる信頼の獲得・維持
- ④ **物理的知性（肉体）** — 自身の健康や幸福だけでなく、個人及びシステム双方の変革に必要なエネルギーを注ぐ、私たちの周りにいる人々の健康や幸福の追求と維持をする能力
 - 個人の健康や幸福の維持・追及
 - 健康な体とプレッシャーの下でも動じない心

The Center for Curriculum Redesign(CCR)の枠組み

世界

CCR (The Center for Curriculum Redesign) では、各国の教育機関や専門機関などによって作られた既存の枠組みや様々な産業のCEOへの調査を基に、**21世紀コンピテンシーの枠組み**として、「知識」、「スキル」、「人間性」、「メタ認知」を挙げている。

カリキュラム・リデザイン・センター	DeSeCo (OECD)	キー・コンピテンシー (EU)	21世紀型スキル (ATC21S)
知識	道具を相互作用的に活用する	外国語によるコミュニケーション 数学、科学技術 デジタルコンピテンシー 起業家精神	情報リテラシー ICTリテラシー
スキル	異質な集団で交流する	母国語によるコミュニケーション	創造性とイノベーション 批判的思考、問題解決、意思決定 コミュニケーション 協働 (チームワーク)
人間性	自律的に活動する	社会的能力と市民としての能力 自発性 文化的意識と表現	人生とキャリア発達 シチズンシップ (地域と世界) 文化的意識と文化的能力 個人の責任と社会的責任
メタ学習	省察性	学び方の学習	学び方の学習 メタ認知



CCR(The Center for Curriculum Redesign) : 21世紀における幼稚園から高校までの教育のスタンダードを再設計することによって、人間の能力を拡大し、集団的な反映をもたらすことを目指した国際的組織、研究センター

(出典) C・ファビル他著、岸学監訳「21世紀の学習者と教育の4つの次元」 北大路書房 19

経済団体が求める資質・能力

- 経済団体が求める資質・能力としては、「社会人基礎力」に示す資質・能力のうち、**主体性と課題発見力、多様性を尊重し価値観の異なる相手との協働が強調**されている。
- また、「社会人基礎力」では示されていない、**リベラル・アーツ、情報活用能力、双方向で真摯に学び合う対話力**などが示されている。

「今後の教育改革に関する基本的考え方」 日本経済団体連合会（2016.4.19）

これからの時代に求められる素質・能力

- ✓ 自ら課題を設定し主体的に解を見出す能力、自らの意見を論理的に発信する力、外国語によるコミュニケーション能力、リベラル・アーツ、多様性を尊重して他者と協働して事業を遂行する能力
- ✓ 理工系であっても人文社会科学系を含む幅広い分野の科目を学ぶことや、人文社会科学系であっても、先端技術や理数系の基礎的知識を学ぶこと
- ✓ 質の高い情報を取捨選択し、情報を課題解決のために使いこなす情報活用能力

「これからの企業・社会が求める人材像と 大学への期待」 経済同友会（2015.4.2）

企業が求める人材像と必要な資質能力

- ✓ 変化の激しい社会で、課題を見出し、チームで協力して解決する力（課題設定力・解決力）
- ✓ 困難から逃げずにそれに向き合い、乗り越える力（耐力・胆力）
- ✓ 多様性を尊重し、異文化を受入れながら組織力を高める力
- ✓ 価値観の異なる相手とも双方向で真摯に学び合う対話力（コミュニケーション能力）

(参考)「社会人基礎力」に類似する各省からの提言

	社会人基礎力 (経済産業省)	人間力 (内閣府)	学士力 (文部科学省)	就職基礎力 (厚生労働省)
趣旨	「職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力」として、経済産業省の研究会が提言。 (平成18年1月「社会人基礎力に関する研究会－中間取りまとめ－」)	「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」として、内閣府の研究会が提言。 (平成15年4月「人間力戦略研究会報告書」)	「各専攻分野を通じて培う、学士課程共通の学習成果」として、中央教育審議会が提言。 (平成20年12月答申「学士課程教育の構築に向けて」)	「企業が採用に当たって重視し、基礎的なものとして比較的短期間の訓練により向上可能な能力」として、厚生労働省が提言。 (平成16年1月「若年者の就職能力に関する実態調査」)
内容	○前に踏み出す力 (アクション) ・主体性 ・働きかけ力 ・実行力 ○考え抜く力 (シンキング) ・課題発見力 ・計画力 ・創造力 ○チームで働く力 (チームワーク) ・発信力 ・傾聴力 ・柔軟性 ・状況把握力 ・規律性 ・ストレスコントロール力	○知的能力的要素 ・基礎学力 (主に学校教育を通じて修得される基礎的な知的能力) ・専門的な知識・ノウハウを持ち、自らそれを継続的に高めていく力 ・それらの上に応用力として構成される「論理的思考力」、「創造力」など ○社会・対人関係力的要素 ・コミュニケーションスキル、リーダーシップ、公共心、規範意識や他人を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高めあう力など ○自己抑制的要素 ・上記の要素を十分に発揮するための「意欲」、「忍耐力」や「自分らしい生き方や成功を追及する力」など	○知識・理解 ・他文化・異文化に関する知識の理解 ・人類の文化、社会と自然に関する知識の理解 ○汎用的技能 ・コミュニケーションスキル ・数量的スキル ・情報リテラシー ・論理的思考力 ・問題解決力 ○態度・志向性 ・自己管理能力 ・チームワーク、リーダーシップ ・倫理観 ・市民としての社会的責任 ・生涯学習力 ○統合的な学習経験と創造的思考力	○コミュニケーション能力 ・意思疎通 ・協調性 ・自己表現力 ○職業人意識 ・責任感 ・向上心・探究心 ・職業意識・勤労観 ○基礎学力 ・読み書き ・計算・係数・数学的思考力 ・社会人常識 ○ビジネスマナー ・基本的なマナー ○資格取得 ・情報技術関係 ・経理・財務関係 ・語学力関係

「社会人基礎力」見直しの方向性（案）

近年の求められる資質・能力の議論を踏まえると、第四次産業革命により仕事や生活の環境が大きく変化する中で、人生100年時代を見据えて「社会人基礎力」を発揮し続けられるための“キャリア形成の羅針盤”を示すことはできないか。

①求められる資質・能力がより拡張されるようになった資質・能力

社会人基礎力	クラウス・シュワブ 「4つの知性」	リンダ・グラットン	21世紀型スキル	CCR (The Center for Curriculum Redesign)
前に踏み出す力 (アクション)	感情的知性	生涯にわたる学び	キャリアと生活 シチズンシップ	人間性 メタ認知
考え抜く力 (シンキング)	状況把握の知性	認知能力	働くためのツール	知識 スキル メタ認知
チームで働く力 (チームワーク)	啓示的知性	社交性 問題解決力 状況適応力	コミュニケーション 協同 チームワーク	スキル 人間性 メタ認知

②新たに求められるようになった資質・能力

➤ シュワブの4つの知性における「健康や幸福を追及・維持する能力」